

道立高等学校の生徒の道内大学への派遣・交流事業（北海道大学会場）

1. 目的

道立高等学校等の生徒を道内大学に派遣し、同大学の留学生との英語による交流や、大学の講義の受講、研究室訪問等を通して、英語によるコミュニケーション力の向上を図るとともに、国際的な視野を育み、海外と積極的に交流しようとする意欲の向上を図る。

2. 主催

北海道教育委員会、国立大学法人北海道大学

3. 実施時期

令和5年(2023年)10月11日(水)、12日(木)、13日(金)

4. 実施場所

北海道大学構内 学術交流会館

5. 参加者

全道の道立高等学校等20校から36名（1年次8名、2年次28名）が参加

6. 日程

日程	時間	内容
1日目 10月11日 (水)	13:30-13:45	開会式
	13:50-14:30	【ワークショップ 1】 「自己紹介」
	14:30-15:50	【ワークショップ 2】 「グループ・ディスカッション」
	16:00-16:45	留学経験の講演1「アメリカ・カナダ」
2日目 10月12日 (木)	9:00-10:30	北海道大学キャンパスツアー
	10:40-11:30	【ワークショップ 3】 「在札幌米国総領事館補佐官による講演」
	11:40-12:00	プレゼンテーション活動1「キャンパスツアーの報告」
	12:00-13:00	昼食
	13:00-13:50	留学経験の講演2 「フィンランド・ロシア・韓国・ザンビア」
	14:00-15:45	留学生によるプレゼンテーション「留学生と話そう！」
	16:00-16:45	プレゼンテーション活動2「プレゼンテーション資料作成」
3日目 10月13日 (金)	9:00-9:45	プレゼンテーション活動3「グループ・プレゼンテーション」
	10:00-11:00	大学の講義体験「Cutting Edge Technology of Origami Engineer」
	11:05-11:50	スピーチ活動
	11:50-12:00	閉会式

事業の様子

1日目・10月11日（水）

高校生、留学生、ALTが9つのグループに分かれ、様々なコミュニケーション活動を行いました。開会式から All English で、生徒たちは緊張した雰囲気の中、しっかりと話を聞いていました。

「ワークショップ1」

会場全体で自己紹介をする楽しいアクティビティから始まり、その後、グループ内でクロームブックを用いて、1人1人が自分の住むまちの紹介や趣味や特技、将来の夢などを自由に発表し合い、交流を深めました。



生徒からは「緊張が解け、同じグループ内の友達とも積極的に英語でコミュニケーションが取れた」、「英語を積極的に話すように頑張ったことで、少し自信がついた」などの感想がありました。



「ワークショップ2」

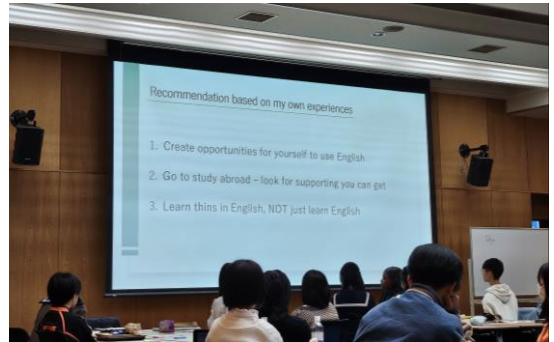
函館中部高校の木村圭祐先生が講師を担当し、小さなまちで多くの外国人観光客を受け入れる際の問題点と、観光客と地域住民両方にとって有益な解決策について、英語を使いグループ内で話し合いました。

生徒からは、「国内の観光について学んだり、ディスカッションの進め方を身に付けたりすることができた」という感想がありました。



「留学経験の講演1」

ほっかいどう未来チャレンジ基金を利用し、大学生時代にアメリカやカナダへの留学を経験した海辺菜々美さんに、その体験や留学することの意義について話していただきました。具体的な英語の学習方法や「英語を学ぶのではなく、英語で何かを学ぼう。その機会を自分で作り出そう。」という高校生への熱い応援メッセージが盛り込まれた講演でした。



2日目・10月12日（木）

「北海道大学キャンパスツアー」

生徒と留学生が大学構内を回り、「観光客にインタビューしよう」などのミッションのクリアを目指すキャンパスツアーを行いました。

生徒からは、「歩きながら留学生やグループのメンバーと話すことで、自然なコミュニケーションの場を体験することができた」、「留学生に北大のことを教えてもらうことができた」、「実際に色々な場所を散策し、北大の広さを改めて感じた。また、様々な国から来た観光客がいて、北海道の人気も改めて実感した」などの感想がありました。



「ワークショップ3」

在札幌米国総領事館補佐官の牛丸由恵さんが講師となり、領事館の役割や仕事内容、ご自身の留学経験などについて失敗談も含めてお話していただきました。終了後には、積極的に牛丸さんに質問をしている生徒の姿も見られました。

生徒からは、「普通なら詳しく知る機会がないような仕事を知り、自分の視野を広げることができ、自分のキャリアを考える上のヒントになった」などの感想がありました。



「留学経験の講演2」

北海道大学大学院工学院の中野佑美さんが講師となり、留学を決めたきっかけや海外で苦労したことなどをお話していただきました。生徒からも多くの質問があり、終了後には、もっと話を聞きたい生徒たちの行列ができていました。



生徒からは、「留学の話を聞いて、留学は楽しそう！と感じた。英語の勉強法やモチベーションを保ち続ける方法など参考になることが聞けてよかった」、「海外での体験をたくさん聞けてうれしかった。留学とは程遠いと考えていた私にも、少し身近に感じる事ができた」などの感想がありました。

「留学生によるプレゼンテーション」

北海道大学の繁富准教授による進行で、4名の留学生が自身の研究内容についてプレゼンテーションを行いました。その後4部屋に分かれ、少人数で留学生たちと、出身国のことや北海道での生活などについて話をすることができました。



生徒からは「研究内容は難しく、理解できなかったところも多かったが、留学生たちが熱意を持って研究していること、そしてとても英語が上手だということがわかった」、「大学生になるとこんな感じの研究をやるのだなと知ることができた」、「プレゼン後の交流でも、とてもフレンドリーに話をさせていただき、楽しかった」などの感想がありました。

「プレゼンテーション活動2」

1日目に続き木村先生が講師となり、外国人観光客と、地域住民双方にとって有益なプロジェクトについて、グループの中でより具体的に話し合いました。

生徒は互いに英語でコミュニケーションを図りながら、ポスターを作成し、発表内容を考えるなどの準備をしていました。



3日目・10月13日（金）

「プレゼンテーション活動3」

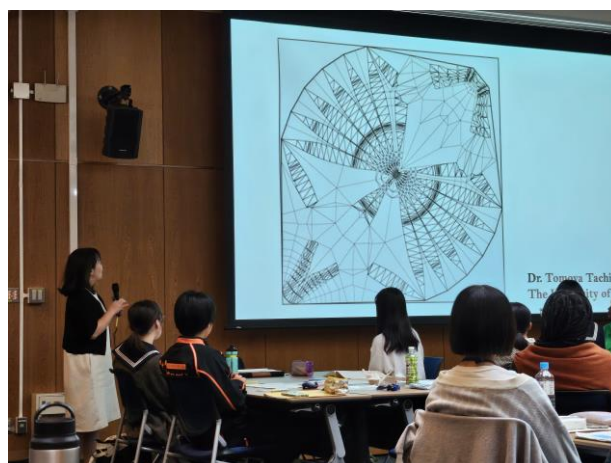
前日から準備をしてきたプレゼンのグループ発表を行いました。留学生が審査員となり、最もユニークな解決策を提案したグループが発表されました。



生徒からは「どのように効果的にプレゼンテーションを進めればいいのか、分かりやすいプレゼンテーションとは何かを考えながら活動でき、これからの学校生活で役に立つ活動だったと思う」、「英語だけで社会問題について発表することで、自分の英語力のさらなる向上を感じることができた」、「色々な視点を持つプレゼンテーションを聞くことができ、たくさんの学びを得た」「この時間のおかげでメンバーとも積極的にコミュニケーションを取ることができた」などの感想がありました。

「大学の講義体験」

北海道大学の繁富准教授が『Cutting Edge Technology of Origami Engineer』と題して折り紙工学について英語で講義を行いました。



生徒からは、「折り紙は単なる遊びの道具ではなく、現代医学などに応用できる部分があることを知った」、「日本の伝統的な折り紙が商品のデザインに使われることで材料費がカットできて環境に良いということを初めて知った」、「北海道大学の講義の形式について学べる、とてもいい機会だった」などの感想がありました。

「スピーチ活動」

スクリーンに提示された話題について、ペアで2分間自由に会話をし、席を移動してまた違う相手と楽しく会話するという活動を約40分間行いました。



生徒からは、「最後にたくさんの人と会話する機会があったので、最初と比べてどのくらい自分の英語力が上がったのかを試す機会になった」、「高校生、ALT、留学生、色々な人とテーマに合わせた会話ができて、リアクションや話の広げ方がとても参考になった」、「即興で出されたお題に対してすぐ答えを出すことが難しかったが、3日間のおかげで以前よりもスムーズに英語が出てくるようになりそれを実感できてとても嬉しかった」という感想がありました。

プログラム全体を振り返って、生徒からは「国内にいても、こんなに海外の人と交流したり英語を話す機会を持つことができるものなのかと驚いた」、「ここで得られた自信や多くの学び、そしてできなくて感じた悔しい思いを糧に、これからも英語力の向上に努めていきたい」、「これからもっと英語を学び、様々な人と話して世界をより良くしたいと思うようになった」、「これからの自分の生活、選択に大きな影響を与えてくれる3日間にできたと思う」、「英語が好きな人と出会って一緒に楽しめて良かったし、日本語以外を母語とする方々とたくさん英語で話せて貴重な3日間を過ごせた」などの感想がありました。



プログラムへの参加を通して、36名の生徒は、英語力の向上や大学の授業等についての理解の深まりを大いに実感することができました。また、同じ目標をもった仲間や実際に留学を経験した先輩方、さらに北海道大学の留学生との出会いを通して、改めて海外に対する関心を高めるとともに、自らの進路実現に向けて決意を新たにしていました。